

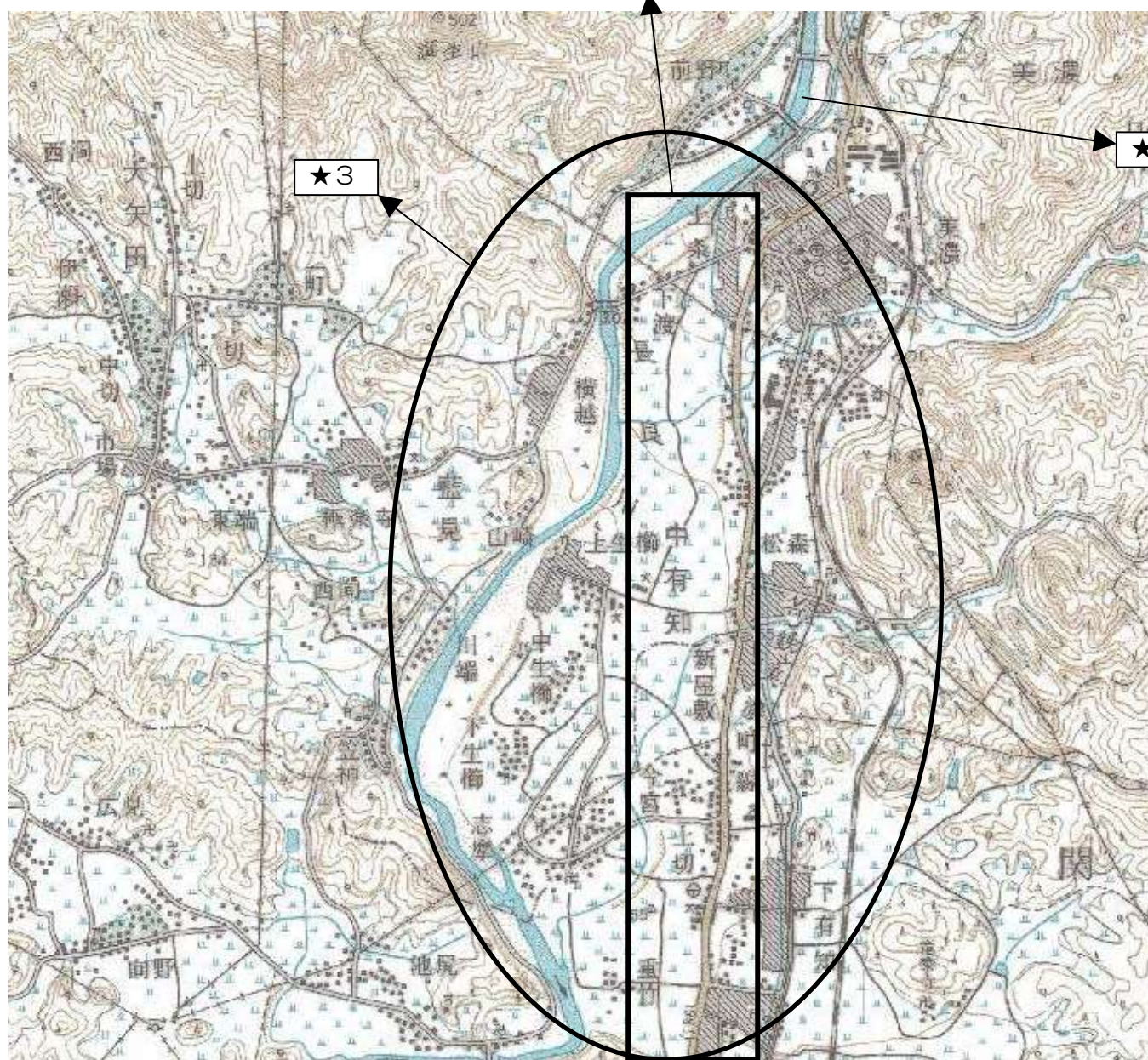
授業で使える当館所蔵地図

No. 64『2万5千分の1地形図 美濃』

作成年：1967（昭和42）年

サイズ：42×52cm

作者：国土地理院



【解説】

美濃市を流れる長良川と、その水を引いた曾代用水が示されている国土地理院作成の地形図である。江戸時代初期に建設された曾代用水によって、上有知（旧美濃町）地区を始め、中有知や下有知地区に広がっていた荒地が開墾され、現在の様に水田が広がる地域に発展してきた。

また、この地図の中央を流れる長良川は、かつては本地域で生産された美濃和紙を下流の岐阜まで運ぶための重要な交通路として活用されていた。美濃和紙は岐阜において岐阜和傘や岐阜提灯などに加工された歴史がある。

★1 長良川

長良川は、岐阜県郡上市の大日ヶ岳に源を発し、三重県を経て揖斐川と合流し、伊勢湾に注ぐ木曾川水系の一级河川で、濃尾平野を流れる木曾三川の一つである。下流の一部では、愛知県とも接し、岐阜県との県境を成している。

また、長良川の支流であり、美濃市を流れる板取川では、古くからその美しい水質を生かして和紙作りが行われてきた。ここで生産された美濃和紙は、世界文化遺産に登録され、本市の地域振興の一翼を担っている。

★2 曾代用水そだいようすい

江戸時代初期（寛永から寛文にかけて）は、新田開発が盛んに行われ、灌漑水を得るための用水開発も各地で行われていた。曾代用水はこの時期に開発され、寛文7年の着工から、延宝4年の工事完了まで約10年の年月を要したと言われている。

『美濃市史』には「本用水は、曾代地区の取水口から上有知、松森、下有知、関、小瀬の各地域を流れ、幹線水路約13km、灌漑面積約13,000ha、開発された新田は最終的には約500haにもおよんだ。しかも、この用水は、百姓相互の話し合いで工事が成り「百姓相対用水」といわれ、幕藩体制の権力による御用用水でなかったことは特筆さるべきで、全国的にも稀な成立経過をもつ用水である。」と記述がある。

また、本用水は現在におよぶまでの350年間、農業用水として地元農業の発展に活用されてきたことや、先述の様に農民主体で工事が進められたことなどから、平成27年10月に世界かんがい遺産として登録されている。

★3 美濃市

美濃市は、岐阜県の中濃地方に位置する市である。

市街地には長良川鉄道的美濃市駅があり、南北の交通の要となっている、また、東海北陸自動車道が通っており、南は愛知県、北は富山県に行く際の重要な交通網を形成している。

また、本市は美濃和紙の産地としても有名である。美濃和紙は、2014年に「和紙 日本の手漉和紙技術」として「石州半紙」や「細川紙」とともにユネスコの無形文化遺産に登録された。

【用語について】

・用水

近世になると、稲作技術が発達し、石高の向上を競った領主や諸藩の大名などにより、新田開発が盛んに進められるようになった。同時に稲作に欠かせない水の確保が問題となり、川などから直接水を引くことが難しい地域へ農業用水を引くための用水路が各地で作られるようになった。

また、農業用水の大きな特徴は、自然界の水循環というシステムと融合した形で無駄なく利用されているということである。上流で取水された農業用水は使用後、大部分が河川や地下水に還元され、下流で再び農業用水や都市水などに利用されることになる。また、水田や用水路を通るうちに、濾過されたり、酸素を取り込んだりして水質も浄化される。（農林水産省のホームページより）

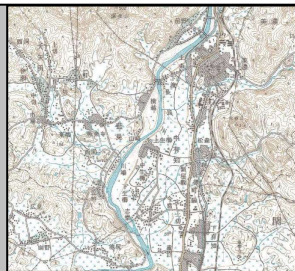
【利用の例】

○きょう土が発展してきた背景について考えることができる。

→小学校第4学年社会科「きょう土のはってんにつくす」の学習において、喜田吉右衛門が生きた時代的美濃市は、水問題に悩まされており、土地があっても耕作地が少なかった事実を学習した上で、本地図を活用して曾代用水を建設した理由を追究する。

【曾代用水ができる前の美濃市】

・長良川が耕作地のある土地の10m下を流れているから、水を人の力でくみ上げなくてはいけなかったんだな。これでは土地があっても作物はつけれない。だから、吉右衛門たちは用水を作ろうと考えたんだな。



【曾代用水ができた後の様子】

・曾代用水の周りには水田が広がっている。長良川から耕作地に水を引くことは難しいから、この用水から水を引いているんだな。吉右衛門たちが作った用水によって、この地は作物がたくさんできるようになったんだな。



「喜田吉右衛門たちは、普段から水のくみ上げに苦労したり、干ばつになるたびに大きな被害を受けたりしていたこの土地を、作物が多く実り、人々の暮らしが豊かになるようにしたいという願いがあった。だから、全財産をなげうってまで曾代用水を作ったんだな。」



【発問】

「この地図は平成15年の美濃市の同じ地域を表しています。みなさんが見出した、吉右衛門たちの曾代用水を作って地域の暮らしを豊かにしたいという願いは、現代の美濃市のまちの様子にも表れているのでしょうか。」

「地図を見ると、現在でも水田が豊かに広がっているよ。また、以前に比べて建物や住宅が増えてきているよ。曾代用水の建設は農業の発展だけではなく、美濃市に人を集め、住みよいまち作りにもつながっているんだ。吉右衛門たちの願いは今も実現され続けているんだな。」

